

## 病害虫発生予察注意報第1号

### 佐賀県

本年はトビイロウンカの飛来量が多く、今後、早植え及び普通期水稻で発生が増加し、被害を生じる恐れが高まっています。ついては、以下を参考に、圃場ごとの発生状況を確認したうえで防除対策を徹底してください。

作物名：早植え及び普通期水稻  
病害虫名：トビイロウンカ

#### 1) 注意報の内容

発生地域：県内全域  
発生量：平年より多い

#### 2) 注意報発令の根拠

- (1) 本年は、6月6～7日、6月30日、7月10～11日頃及び7月21日を中心にトビイロウンカが断続的に飛来した。県内(嬉野市)のライトトラップでの6月1日から7月25日までの総捕獲数は、10年間(2010～2019年)の中で、2番目に多い(図1)。
- (2) 7月30～31日に県中西部を中心に行った臨時調査(33圃場)では、トビイロウンカの発生圃場率が60.6%であった(表1)。これは、同地域の8月上旬の定期調査での発生圃場率(平年9.1%、本虫が多発生した2013年は37.5%)より高い。また、臨時調査では、増殖率が高い短翅型雌成虫(写真1)が既に散見されるとともに、一部圃場では本虫の急激な増加を確認している(表1、写真2、3)。
- (3) セジロウンカの飛来量が少ない年は、トビイロウンカの増殖率が高まる傾向にある。このような中、本年は、セジロウンカの飛来量が少なく、トビイロウンカの増殖に好適な条件となっている。
- (4) 福岡管区气象台が7月24日に発表した九州北部地方の向こう3ヶ月の予報では、8月の気温は平年並か高いと予想され、本虫の増殖にやや好適な条件となっており、発生が更に増加し被害を生じる恐れが高まっている。

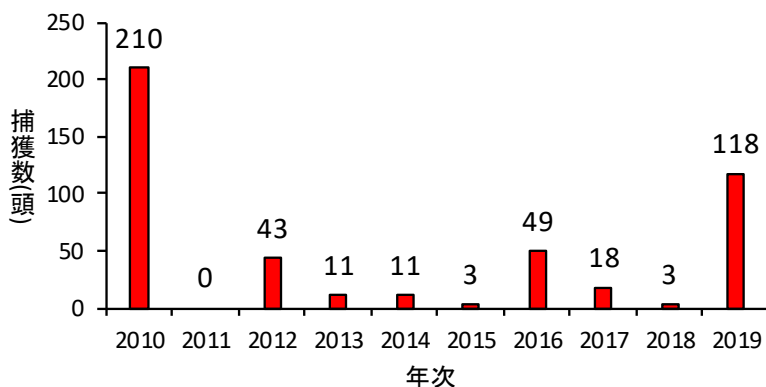


図1 県内(嬉野市)のライトトラップで6月1日～7月25日に捕獲されたトビイロウンカの総数

注) 飛来量(捕獲数)が少なくても、8～10月に急激に増殖する年がある。



写真1 トビイロウンカ雌成虫の短翅型(定着型、写真上)と長翅型(移住型、写真下)

表1 早植え・普通期水稻におけるトビロウカの発生状況（10株調査、2019年7月30～31日）

| 調査地点    |             | 10株当たりトビロウカ頭数 |            | 品種    |
|---------|-------------|---------------|------------|-------|
|         |             | 成虫数（うち短翅雌成虫）  | 幼虫数<br>注1) |       |
| 唐津市     | 1           | 8 (6)         | 14         | 夢しずく  |
|         | 2           | 7 (6)         | 11         | 夢しずく  |
|         | 3           | 2 (2)         | 6          | -     |
|         | 4           | 0 (0)         | 2          | -     |
|         | 5           | 2 (2)         | 0          | -     |
|         | 6           | 0 (0)         | 0          | -     |
|         | 7           | 3 (3)         | 0          | -     |
|         | 8           | 0 (0)         | 0          | -     |
|         | 9           | 0 (0)         | 0          | -     |
| 鹿島市     | 1           | 4 (3)         | 6          | 夢しずく  |
|         | 2           | 2 (2)         | 4          | 夢しずく  |
|         | 3           | 4 (3)         | 1          | 夢しずく  |
|         | 4           | 1 (1)         | 0          | 夢しずく  |
| 嬉野市     | 1           | 45 (7)        | 173        | 夢しずく  |
| 太良町     | 1           | 3 (2)         | 0          | 夢しずく  |
|         | 2           | 2 (0)         | 3          | さがびより |
|         | 3           | 1 (0)         | 1          | 夢しずく  |
|         | 4           | 1 (0)         | 1          | さがびより |
|         | 5           | 2 (1)         | 3          | 夢しずく  |
| 佐賀市東与賀町 | 1           | 0 (0)         | 0          | 夢しずく  |
|         | 2           | 0 (0)         | 0          | 夢しずく  |
| 小城市     | 1           | 0 (0)         | 1          | -     |
|         | 2           | 0 (0)         | 1          | -     |
| 多久市     | 1           | 2 (1)         | 0          | -     |
|         | 2           | 0 (0)         | 0          | -     |
| 武雄市     | 1           | 0 (0)         | 0          | -     |
|         | 2           | 0 (0)         | 0          | -     |
| 白石町     | 1           | 0 (0)         | 0          | 夢しずく  |
|         | 2           | 0 (0)         | 0          | 夢しずく  |
| 伊万里市    | 1           | 0 (0)         | 1          | -     |
|         | 2           | 0 (0)         | 0          | -     |
|         | 3           | 0 (0)         | 0          | 夢しずく  |
|         | 4           | 0 (0)         | 0          | -     |
|         | 5           | 0 (0)         | 0          | -     |
| 発生圃場率   | 本年          |               | 60.6%      |       |
|         | 平年          |               | 9.1%       |       |
|         | 2013年(多発生年) |               | 37.5%      |       |

注1) 中～老齢幼虫を計数した。



写真2 臨時調査で確認したトビロウカ成虫及び幼虫（2019年7月30日）



写真3 臨時調査で確認したトビロウカ幼虫（2019年7月30日）

### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 薬剤による防除適期は、幼虫ふ化揃い期である。
- (2) トビロウカの発生状況は、圃場の外からの観察では確認できない。また、田植え時期、品種、地域及びこれまでの防除の違い等によって、圃場毎に発生状況は大きく異なる。このため、7月に防除を行った圃場においても、発生予測図（図2）を参考にして随時、各圃場の発生状況を確認し、8月の基幹防除を実施する。
- (3) 本虫は株元に生息しているので、薬剤は株元まで十分かかるよう、丁寧に散布する。
- (4) 薬剤散布の際には、周辺作物への飛散防止に努めるとともに、収穫前使用日数及び使用回数等の農薬使用基準を遵守する。

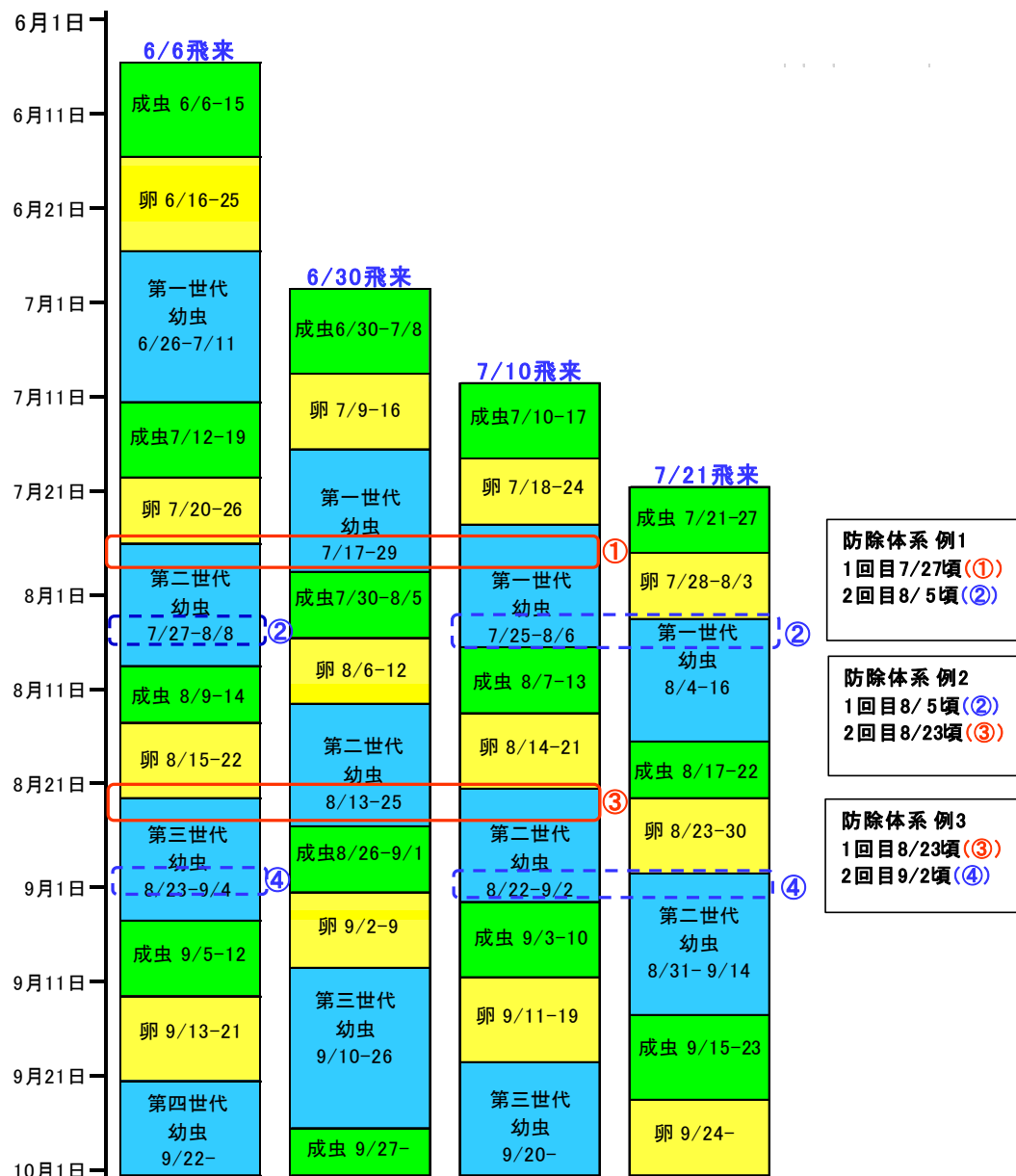


図2 トビイロウンカ各世代の発生予測(第5版、2019年8月1日作成)

- 6月6～7日頃(図では6月6日)、6月30日頃、7月10～11日頃(図では7月10日)、7月21日頃に飛来したウンカを起点とし、有効積算温度と佐賀市川副町の気温データ(第4版では7月22日までは実測値で以降は平年値、第5版では7月31日までは実測値で以降は平年値)を基に作成した。その結果、第5版は第4版と比べ、各飛来虫の、その後の発生時期は約0～1日遅くなったが、全体としてほとんど変わらない。
- 普通期水稲には、6月6日飛来虫は定着していないと考えられる。この例のように、各飛来波に対する防除の重要度は、田植え時期によって異なる。
- 本虫に対しては、幼虫ふ化揃い期の防除効果が最も高い。しかし、本年は断続的に飛来がみられたことから、飛来波ごとの幼虫の出現時期は異なると予想される。複数の飛来波の幼虫を、より効率的に防除可能と考えられる時期として「6/6、6/30、7/10飛来波を対象とした場合を実線赤枠(①、③)」「6/6、7/10、7/21飛来波を対象とした場合を点線青枠(②、④)」で示した。さらに、全ての飛来波を対象とした場合の体系防除の例(1～3)を、本図の右側に示した。
- 田植え時期に加え、地域、水稲の品種、これまでの防除歴等の違いによってウンカの発生量は異なるので、必ず圃場ごとの発生状況を確認したうえで、防除対策を講じる。
- 今後の飛来状況、気象経過に応じて、本図は更新する。最新情報は、農業技術防除センターのホームページで確認する。

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病害虫防除部  
 〒840 2205 佐賀市川副町南里1088  
 TEL (0952)45 8153 FAX (0952)45 5085